

る慰謝料と家族の不安のない生活補償を要求する。そしてはつきりと決定しておく。我々との全快を待つて、早急に処置する。右の事柄については、現在米国から支払われる補償とは全く別個のものであることを付け加える。

当時の被害の補償について、我々は話合っていない。そして、具体的な案も持っていない。それはまだ我々が病気治療中であるからである。そして、最後まで(退院の日まで)静かなる心境と環境に於いてはいらない一番大事な話であり、将来の我々にとって重要な問題であるゆえに、病人の気持ちを刺激しないと思っている。そのために十なるからである。ただし、忘れてはいけない。話を聞いておいていただきたい。話はおくれることはこのましくない。あるいは早い方が良策であろう。

現在、早急に解決されなければならぬ問題は多くあるだろう。そして、すべてが早急なる解決を叫んでいるだろう。

我々に与えた精神的打撃は、はかり知れないものがある。これを安く評価し、また無視するようなことは、絶対出来ないことを強調する。それと同時に福竜丸乗組員の名譽にかけて、この事件のために損害および迷惑をこうむった、各方面日本国民に対し、なっとくのいくよう全面的に最も公正な立場で、最善の方法を要求する。

我々が全快した暁に、全乗組員のかたみのせまい思い、また社会的活動に對して前途に暗い感じをあたえないよう、不安のない状態の解決を要望する。それは、米国は全面的に日本国民にあたえた損害に対し、補償すべきである。我々は現在、多くの人々の好意と当局のご尽力により、我々の心配はうすらぎ家族も一応、生活の不安から救われている。ただし、我々はいつまでも人に情をかけられていることは、たまらない苦しさである。日本政府は速かに米国に申込み、米国は無条件で日本人のつけられることは、最もこのましくないことである。我々は補償金といえる金を突き付けていた。美しい立派な娘さんでした。この娘さんは福竜丸事件

第五福竜丸展示館の展示ケースの中に、長さ三メートルほどの巻き紙のような手記がある。第五福竜丸漁労長見崎吉男さんが事件直後の六月、東大病院の病床でつづったものだが、松阪屋デパートのそまつな包装紙を障子紙のようにはりあわせ、その裏にベンでひつりと心況がしるされている。包装紙の裏紙というのも胸つまるが苦悩にあふれ、人生への真摯な姿に身がひきしめる思いがする。原文のまま全文をここに収録した。

福竜丸だより
—都立・第五福竜丸展示館ニュース—
(財) 第五福竜丸平和協会
〒136 東京都江東区夢の島3-2
都立・第五福竜丸展示館内
電話 (521) 8494

無条件で私は叫ぶ、そして悲憤の涙を流す……

第五福竜丸漁労長 見崎吉男さんの手記から

人間はまた新しい世界のとびらを開けた。そして人間は、自分のほつするあらゆるもの征服しようと/or>。学者を初めあらゆる学者は、何時迄たても世界は、そして科学は未完成だと思うだろう。そして現在よりもっと完成に近づくために全力をつくすだろう。たとえ何年たとうと、人間は満足するまで物ごとを自分の考えたことのために努力するだろう。そして人間は何時までたつても満足しないだろう。そしてたまたまその完成の途上において、人間の考えていた以上に大きな発見をしたり、人間の力ではどうすることも出来ないような大きな力にびっくりしたり、また犠牲者を出したり、喜んだり、泣いたり、悪い方に使おうとしたり、良い方に使おうとしたり、不幸になつたり、幸になつたり、とにかく科学は進

何時の時代でも次におこるべき何かを心配し、心から静かなる楽しい時代をほし涙を流す人間は地位や名譽も財産もない人々である。いつわりのない世界をほし、我がことのように苦しみ、共に泣いでくれ、共に喜んでくれる人々は、人間らしく生きようとする人々は、何時も裸の人々である。人のこと泣いでくれ、共に喜んでくれる人々は、人間の涙の味を知る人々であり、涙の苦しさを知った人間の生活がどれほど尊いか知っている人々である。

昔から正義のために人々の平和

に対するためにまた新しい努力をする。どこ迄人間がよくが深いか、だれも予言出来ない。地球がある限り、人間のよは続くだろう。そして涙を流すだろう。

何時の時代でも次におこるべき何かを心配し、心から静かなる楽しい時代をほし涙を流す人間は地位や名譽も財産もない人々である。いつわりのない世界をほし、我がことのように苦しみ、共に泣いでくれ、共に喜んでくれる人々は、人間らしく生きようとする人々は、何時も裸の人々である。人のこと泣いでくれ、共に喜んでくれる人々は、人間の涙の味を知る人々であり、涙の苦しさを知った人間の生活がどれほど尊いか知っている人々である。

昔から正義のために人々の平和に対するためにまた新しい努力をする。どこ迄人間がよくが深いか、だれも予言出来ない。地球がある限り、人間のよは続くだろう。そして涙を流すだろう。

み、人間は生きて行くために、十人以上のためにはじめに現実的な政治的抜け目なさを立てる。そして彼はさらに現実的な抜目なさをもつて、国内の危機の一人とされるのは、問題を手がける彼のやり方が実際的なためである。彼が汚職事件、インフレ、反米感情などにもかかわらず政局を乘切ることが出来るということは、彼の政治的な抜け目なさを立しょうしている。彼は日本を徐々に對米協力の方向に引張って行っている。そして彼はさらに対米協力の方向に引張って行つた。右のような大略な政府の行き方は大体わかる。つまり「俺の立場を支持するなら、お前の立場を支持しよう。」と言うことだそうだが、実際は私は何もわからない。今の政府が立派な政府であるか、また将来を通して現在の政治が日本に何をもたらすかは、まだ未定である。

力で立って、自分の力で生活したい。その時の助力を補償として頂きたい。

そして、もう一つ私の心配していること、それが私的目的をはずれなかつたために、私の頭からはなれない一つの事實を記して見る。

五月一八日、日興証券提供によるテレビ放送(六時五十分)「焼津港」を我々は、その後の我々の故郷の表情から何かを求めるように、真剣な氣持で不安と期待の内にわずか数分の場面を文字通り、弱った視力を集中させ手に汗をにぎつときょう覗いていました。

私は彼等と共に病室にいるのが苦しくなった。私の最も心配している痛い所をついた一言であった。私は注目した。

「私は船員さんとは絶対結婚したくない」突然に打ちのめされた。そして、病室はさらに静かになった。

私は彼等と共に病室にいるのが苦しくなった。私の最も心配している痛い所をついた一言であった。私は娘さんをくらいいけて私はこの娘をくらいいとも、また言動をせめようともする者ではありません。むしろ、この娘さんの心境のほうが正しいものだらうと思います。ただし、我々にとつてはこの話を路上の一挙話として聞きのがすことの出来ない何かを感じとり、将来の生き方について、また傷ついた若い命の前途が思ひやられてならない。

暗い未来を考えないこと。

微笑を忘れないこと。
私は強調し、私達は静寂なる人生を愛し、ご心配して下さる多くの人々に対し、一日も早く期待にそいたい。

本のために十になるか、一になるか、もちろん私は知らない。

ただし、今度の私共の事件に対して、日本の政府が米国に対し行動している交渉について大きな関心を持つて見つめている。私が一番心配している事実は右のような方針にて進んでいる日本政治が米国に対し、当然な話である所の私共を頂点として、日本国民のこうむったかの水爆事件に対する直接、間接を問わず日本人の損害を全面的になつとくいくよう、正しい解決を米国を相手にどこまで話を進め、どのような結果をつけるか、私共は真剣に見つめている。

比の度の国会乱闘事件により、私共は補償問題の前途に大きな不安を感じる。ただし話の相手は米国である。そして米国大統領はこの演説をしている。

「真実と正義と公正さに立脚した協力的な平和を樹立する。」私共に対する補償を認めていた。米国は我々をいつわることはないと安心を感じる。アリソン大使を通じ、私共は首相を立てるに含まれていない。

最近、これほど世論をまきおこした事件は他にない。私は首相の答弁を聞いて、少なからず失望した。しかし、政治の行き方を考えれば、首相の話もなるほどどうなずける。けれど幸にして、この答弁を聞いて、少なくとも失敗はまだ未定である。もしくは首相も健在である。日本人の良識も健在である。私たちは何も心配することはない。近い将来に合理的なる解決が実現されるだろう。

宿命的な感じをあたえたことだろう。そして、あらゆる言論機関はいつせいに立ち上り、あらゆる角度からこの事件にメスを入れ、世界の世論は沸き立ち、当事者である私は事件のただならぬために苦悩の連日、嵐に飛ばされた木の葉のそんざいそのまゝ病院に収容され、暖かい日本中の人々にまもられて止が大きく叫ばれた。

政治、思想を超えた問題であり、日本人だけでなく、また人間だけでなく地球上に生存するあらゆる生物の重大問題である。この水爆を作った科学者も、また米国大統領はじめ世界を動かす力を持っている政治家も一人ではどんな力もない。また、彼等も人間である以上、我々とかわりない。そして彼らにも涙もあり、また悲しむことも知っているだろう。すべてのかたがきを捨て、すべての名譽を捨て、そして財産を地位を捨てて涙の味を知る個人の人間となつた時、彼らもまた、声を大にして「水爆禁止」を叫び、不幸な人々と共に心から悲しみ、苦しむだろう。

自由、共産と世界の二大勢力の対立により、お互いに相手をたおしきりに立上り、あらゆる角度からこの事件に入り、世界の世論は沸き立ち、当事者である私は事件のただならぬために苦悩の連日、嵐に飛ばされた木の葉のそんざいそのまゝ病院に収容され、暖かい日本中の人々にまもられて止が大きく叫ばれた。

政治、思想を超えた問題であり、日本人だけでなく、また人間だけでなく地球上に生存するあらゆる生物の重大問題である。この水爆を作った科学者も、また米国大統領はじめ世界を動かす力を持っている政治家も一人ではどんな力もない。また、彼等も人間である以上、我々とかわりない。そして彼らにも涙もあり、また悲しむことも知っているだろう。すべてのかたがきを捨て、すべての名譽を捨て、そして財産を地位を捨てて涙の味を知る個人の人間となつた時、彼らもまた、声を大にして「水爆禁止」を叫び、不幸な人々と共に心から悲しみ、苦しむだろう。

事件以来の米国側の言明に対し無条件で私は叫ぶ。そして悲憤の涙を流す。乗組員の幾多の悲惨な姿、ニュース、映画、雑誌に新闻はもちろん。私はたまらない、涙を拭いていた未知の危険、心中は嵐だ。私は自らの気持ちを冷靜にするために全神経を集中、息をむいていた未知の危険、心の牙をむいていた未知の危険、心の中は嵐だ。私は自らの気持ちを冷静にするために全神経を集中、息がとまりそうだ。もちろん顔の色はなかったろう。全員息を殺し声なく爆発方向に注目、数秒いっせんにブリッヂに全員の眼が集中した。私は彼らの気持を推測するひまもない。方位と時間を計った。そしてブリッヂで息を殺して待つ。私の脳裡にこれから先、何がおこ

うことは、爆発させた当事者が一番よく知っている事実である。私はここで、今さら水爆問題を論じて見つめている。私が一番心配している事実は右のような方針にて進んでいる日本政治が米国に対し、当然な話である所の私共を頂点として、日本国民のこうむったかの水爆事件に対する直接、間接を問わず日本人の損害を全面的になつとくいくよう、正しい解決を米国を相手にどこまで話を進め、どのような結果をつけるか、私共は真剣に見つめている。

うことは、爆発させた当事者が一度もないとではない。すでにあらゆる角度から適切な判断を下している。ただし、私共は最初多くの人々が日本の政府のはつきりした見解を聞くことの出来なかつたことは、残念であり不幸であった。六月一日毎日新聞、参院内閣委員会における首相の答弁の一節を左記に記します。

「(日本は水爆問題について発言権を持つ。首相は渡米に当つて、この問題を交渉するつもりか。)

答(外遊はまだ未定である。もし行くとしてもその交渉は予定に含まれていない。)

最近、これほど世論をまきおこした事件は他にない。私は首相の答弁を聞いて、少なくとも失敗はまだ未定である。もしくは首相も健在である。私たちは何も心配しない。しかし、政治の行き方を考えれば、首相の話もなるほどどうなずける。けれど幸にして、この答弁を聞いて、少なくとも失敗はまだ未定である。もしくは首相も健在である。日本人の良識も健在である。私たちは何も心配することはない。近い将来に合理的なる解決が実現されるだろう。

私は若輩であり、未熟である。私の漁士としての命はこれからである。故にすべての点において劣っているだろう。そして満点でないだろう。ただし、福竜丸の乗組員は一流的である。私が知っている限りでは、福竜丸の乗組員はどの船の船員より優秀な船員であり、船の船員より優秀な船員であり、健康な人々であった。そして、この人達と一緒に乗船出来、一緒に働くことが出来た私は多くない幸運な一人であった。私は彼等と働いた数カ月、最も幸と生きがいを感じた。彼らは未熟なる私に對して、協力をおします自己の全力を費して努力した。

それに対し、第五福竜丸乗組員は何を持ってむきいられたか。何も知らず、船をそこまで走らせたのは私である。一人で位置を出し、そして針をきめ、操業開始をつた事件は世界的に大きな衝撃を与えた。それは広島、長崎の記憶がやゝうすれかけていた日本人には、再びその記憶がよみがえって、唯この事いわゆる死の灰を身につけて帰った事件は世人の同情を得て自らの責任を免れて社会の常識にしたがうだろう。反省がなければならない。」

これは米国がやったのだ。そして米国人と公正なる世界の人々に告げたい。私共が放射性物質、いわゆる死の灰を身につけて帰った事件は世人の同情を得て自らの責任を免れて社会の常識にしたがうだろう。反省がなければならない。

これは第五福竜丸乗組員は秘密と大きなヴァーナーに碎け散り、思わず目まいを感じ、くらくらとした。爆発直後の瞬火ダルマに包まれ、木つ葉みじかめで、だれにも何も知られぬまま、数秒の出来事である。そして、我々は廣島、長崎の記憶がやゝうすれかけていた日本人には、再びその記憶がよみがえって、唯この事いわゆる死の灰を身につけて帰った事件のがい略を知る人々には、何か

えた。とにかく、船をそこ迄持つていったことに關しては、誰にも責任はない。私一人にある。本航刻です。予定より十五分おくれて、家族、知人、各船の人々から今迄に送られて、私はあらためて自分責の重大さを痛感し、勇気と希望に湧いた。

私は若輩であり、未熟である。私の漁士としての命はこれからである。故にすべての点において劣っているだろう。そして満点でないだろう。ただし、福竜丸の乗組員は一流的である。私が知っている限りでは、福竜丸の乗組員はどの船の船員より優秀な船員であり、健康な人々であった。そして、この人達と一緒に乗船出来、一緒に働くことが出来た私は多くない幸運な一人であった。私は彼等と働いた数カ月、最も幸と生きがいを感じた。彼らは未熟なる私に對して、協力をおします自己の全力を費して努力した。

それに対し、第五福竜丸乗組員は何を持ってむきいられたか。何も知らず、船をそこまで走らせたのは私である。一人で位置を出し、そして針をきめ、操業開始をつた事件は世界的に大きな衝撃を与えた。それは広島、長崎の記憶がやゝうすれかけていた日本人には、再びその記憶がよみがえって、唯この事いわゆる死の灰を身につけて帰った事件は世人の同情を得て自らの責任を免れて社会の常識にしたがうだろう。反省がなければならない。

これは第五福竜丸乗組員は秘密と大きなヴァーナーに碎け散り、思わず目まいを感じ、くらくらとした。爆発直後の瞬火ダルマに包まれ、木つ葉みじかめで、だれにも何も知られぬまま、数秒の出来事である。そして、我々は廣島、長崎の記憶がやゝうすれかけていた日本人には、再びその記憶がよみがえって、唯この事いわゆる死の灰を身につけて帰った事件のがい略を知る人々には、何か